

第三期札幌市図書館協議会

第 5 回会議

議 事 録

日 時：平成 23 年 3 月 25 日（金）午後 2 時開会
場 所：札幌市中央図書館 3 階 研修室 A

１．開　　会

●事務局（鈴木管理課長）　それでは、定刻よりちょっと早いですが、始めたいと思います。

本日は、お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の出席委員は、予定では１０名でございまして、久住副会長はちょっとおくれでいらっしゃいます。それから、開発委員と吉田委員からは欠席する旨の連絡をいただいております。

出席者数は１０名を予定しておりまして、札幌市図書館条例施行規則第２７条第２項に規定する委員の過半数を超えていますので、会議は成立しております。

２．あいさつ

●事務局（鈴木管理課長）　開会に当たりまして、中央図書館長からあいさつを申し上げます。

●長谷川中央図書館長　長谷川でございます。

大変ごぶさたしておりました。前回の会議以降、私ども事務局の方で、前回の会議を踏まえて、基本理念・基本方針、施策の方向性についてよりわかりやすいようにということで、前回は見出しだけ出していたような形になっていましたけれども、今回は文章表現を多くしてわかりやすい形にしました。それから、アンケートの集計と分析の方もやってまいりました。そういった作業をやっていた関係で、少し時間がかかりました。今回は、その２つについて皆様方にご説明をさせていただいて、基本理念・基本方針などについてご議論をいただければありがたいと思います。

きょうは、どうぞよろしくお願いいたします。

３．議　　事

●木村会長　それでは、第５回図書館協議会を開催したいと思います。

年度末の忙しいことに加えて、大震災があって、何となくおしりが落ちつかない中でお集まりいただき、ありがとうございました。被災に遭われた方たちのご冥福と、復旧をお祈りしたいと思います。

それでは、本日は、お手元の次第に従って、第２次札幌市図書館ビジョンの基本理念・基本方針、さらにアンケートの結果について皆様のご意見をいただきたいと思います。活発なご意見をいただきたいと思います。

なお、質疑につきましては、それぞれの資料の説明を受けた後に個別の検討の中で行いたいと思いますので、まず、事務局から説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

●事務局（小松調整担当課長）　調整担当課長の小松でございます。私の方からご説明させていただきます。

最初に、お手元にお配りさせていただいております資料の確認をさせていただきたいと思います。

まず、資料１は、Ａ３の基本理念・基本方針案についての資料でございます。それから、Ａ４の資料２は、基本方針、基本の方向性についての説明の資料でございます。それから、資料３は、アンケートの概要をとりまとめたものでございます。それから、資料４は、アンケート調査の報告書の概要版でございます。さらに、資料番号を振ってございませんが、実際に今回アンケートを実際に使いましたピンク色が来館者用のアンケート用紙の現物でございます。白いものが無作為抽出で市民にお送りさせていただいた市民のアンケート用紙でございます。あと、アンケートの中に、図書館のことがわからないと答えようがないということで、両面刷りになりますけれども、利用案内と一緒にアンケートをお送りさせていただいております。前は、でき上がったアンケート自体をまだご案内できない状態だったものですから、今回、改めてご案内させていただくということでお配りさせていただきました。

それでは、議題の１の方のご説明をさせていただきます。

まず、資料１を見ていただきたいと思います。

前回のときに、基本理念・基本方針の概略の説明をさせていただきましてご意見をいただきました。そのご意見を反映させて再整理させていただいたものが、今回の資料１、第２次図書館ビジョン基本理念・基本方針案についてでございます。

まず、１番上でございますが、基本理念として、１０年後の図書館はこうあるべきだという図書館の目指す方向性でございますけれども、前は、「市民活動を支える『知の拠点』となる図書館」ということでご案内させていただいておりました。議論の中で、市民活動と言うと、ちょっと範囲が狭く窮屈な感じがするので、もっと広く全般的に当てはまるような表現に工夫をした方がよろしいではないかというご意見をいただきましたので、今回、基本理念といたしまして、「市民の生活や活動を支える『知の拠点』となる図書館」と整理させていただきました。

具体的に知の拠点となる図書館というのはどういうことを言うのかということを、点線の四角の中で、３行でご説明させていただいております。読みます。

「情報化社会の急速な進展や少子高齢化の進行など、社会情勢が目まぐるしく変化している。このような状況にも市民が的確に対応できるよう、今後の図書館を市民の読書活動を支援するだけでなく、『市民の生涯にわたる学習を支える場』『市民の生活や地域の課題解決に役立つ場』『札幌市の知的財産を後世に継承するとともに、市民の新たな活動を醸成する場』と位置づけ、これからの図書館運営の基本理念を『市民の生活や活動を支える「知の拠点」となる図書館』とする」ということでございます。

次に、基本方針でございます。

基本理念を実現するための施策展開の柱ということで基本方針を考えております。

前回、今回と同じように３つの基本方針をご紹介させていただいておりました。１つ目

が、「市民の生活や活動に役立つ図書館」ということで、これは今回のものと同じでございます。2つ目が、「本・人・文化が会う図書館」と整理させていただいておりましたが、前回の議論を踏まえまして、「本・人・文化を結び、新たな活動を生み出す図書館」と整理させていただきました。3番目が、前回は「だれもが利用でき、市民と成長する図書館」ということでございましたが、前回の議論の中で、情報を発信していくということがこれから図書館として基本的なスタンスとして求められてくることではないでしょうかというご意見をいただきましたので、それを踏まえまして、「情報発信と市民の参画により、成長する図書館」と整理させていただきました。

前回の議論のときに、今、3つご紹介させていただきました文章のような表現と、もう1つ、動詞形で終わるようなコンパクトに表現する整理の仕方も工夫してみて、両方を一たん整理してみてはいいのではないだろうかというご意見をいただきましたので、「市民の生活や活動に役立つ図書館」これを「役立つ図書館」というふうに言ってはどうか。「本・人・文化を結び、新たな活動を生み出す図書館」の「結ぶ」をとって「結ぶ図書館」と。「情報の発信と市民の参画により、成長する図書館」は「発信する図書館」というふうに簡略化して動詞形で表現してみてはいかがかということで整理させていただいております。

それでは、「役立つ図書館」とはということかということを点線の中の文章で表現させていただいております。「図書館として求められる機能やサービスを高めていく」ということで、「図書館には、日常生活上や仕事、地域活動などのさまざまな場面で直面する課題に対して、その解決を支援する機能の充実が求められている。そのため、図書館は、地域や札幌に関することも含め、印刷媒体から電子媒体まで、多様な市民のニーズに応じて資料や情報を幅広く収集・保存していく。また、利用者が的確に情報を得ることができるよう、分かりやすく使いやすい資料・情報を提供することにより、市民に『役立つ図書館』の実現を目指す」ということが「役立つ図書館」の内容でございます。

次に、真ん中に移りますが、「結ぶ図書館」とはということかということでございますが、「自主的な学習意欲を高め、新しい活動を醸成していく」ということで、「図書館が持つさまざまな資料や情報を提供することにより、人と本を結び、さらに誰もが気軽に図書館を利用することにより、人と人とをつなぎ交流する場を創出していく。特に子どもが、幼少期から本との出会い、人との出会いを通して知識を深め、豊かな感性を磨く場を創出していく。それらにより、図書館を利用する市民が、様々な知識や情報を得て、札幌の生活文化を再認識するとともに、新しい活動を醸成していく場として『結ぶ図書館』の実現を目指す」という内容でございます。

次に、「発信する図書館」でございます。「広く情報を発信するとともに、市民の参画を促す」ということで、「より多くの市民に、図書館に関心を持ち、積極的に利用してもらうためには、図書館の持つ様々な情報を有機的に結びつけ、市民にとって価値ある新しい情報を生み出し発信していく必要がある。さらに、多様化する市民ニーズに応えるよう

サービスの質を向上させるため、ボランティアをはじめとするさまざまな市民との協働を促進するとともに、効率的・効果的な運営を図りながら『発信する図書』の実現を目指す」という内容でございます。

この資料の1番下の方に、施策の方向性ということで、「役立つ図書館」につきまして施策の方向性1、2、3、「結ぶ図書館」についても方向性1、2、3、「発信する図書館」にも方向性1、2、3ということで、例えばこういうことですよというふうに例で紹介させていただいております。この施策の方向性をもうちょっと踏み込んで具体的な行政の課題、政策としてどういうことを考えているのかというところをご説明した資料が資料2になります。ちょっと説明が長くなって恐縮ですが、資料2を見ていただきたいと思います。

まず最初に、「役立つ図書館」の施策の方向性の1番目、「あらゆる世代に対応した資料の収集」という方向性でございます。これは、あくまでも例ということですが、今、事務局の方として具体的に考えているものは、子どもから高齢者まであらゆる世代に役立つよう、幅広い分野にわたって過去から現在に至るまでの資料、情報を収集する。医療や健康、子育て、法律など、市民にとって身近な日常生活上の課題を解決するための資料、情報をバランスよく収集する。将来の世代も郷土を理解できるよう、また、地域の課題解決にも対応できるよう、札幌市に関する資料、情報を積極的に収集、保存するという考え方でございます。

具体的な施策例としては、多様な蔵書構成、札幌市の文化や活動を伝承する郷土・行政資料の収集等といったものを想定させております。

施策の方向性の2番目、「分かりやすく、使いやすい情報提供」ということでございますが、これは、利用者自身で調べものが的確にできるよう、テーマ別資料データや相談窓口機関などをまとめたパスファインダー、質問頻度の高い項目をまとめたQ & Aなどを作成、公表してレファレンスサービスの機能を拡充していく。多岐にわたる、また、より高度な資料要求にこたえるため、大学図書館や専門図書館等との連携強化を図るということでございます。

具体的施策例としては、レファレンスサービスの充実と利用の促進、図書館間の協力の一層の推進といったことを挙げさせていただいております。

施策の方向性の3番目は、「電子サービスの充実」でございます。これが新しい方向性ということになるかと思いますが、情報化社会の進展で、情報量が多い中、紙媒体以外の情報の収集もできるよう、データベース端末などの環境と収集方法を支援していく体制を整備する。札幌市に関する情報を電子化して、札幌市民のほか全国民へ発信していくと。電子書籍など電子化された資料を提供していくということでございます。

具体例としては、インターネット利用環境等の充実、所蔵資料の電子化、電子書籍貸出し・閲覧サービスの実施といった事業例を考えております。

次に、「結ぶ図書館」の施策の方向性の考え方でございます。

施策の方向性の１、「新たな文化との出会いの場の提供」でございます。

読書への関心や学習意欲を高めたり、新たな活動をするきっかけづくりとなるよう、本・人・文化との新たな出会いが必要であり、そのため、気軽に鑑賞できる専門家や文化人の講演やセミナー、本や生活文化に関するさまざまな展示などを積極的に行っていくということでございます。

施策例としては、イベントの充実、テーマ別の図書展示の一層の実施、生涯学習の機会や活動、発表の場などの提供、体験学習や実習の受け入れの推進といったものを考えております。

施策の方向性の２、「誰もが利用しやすいサービスの整備」です。

子どもから高齢者まで、また、障がいのある方が図書館内で資料を容易に探すことができ、借りることができ、また、楽に読書ができるよう、館内の表示方法、貸し出し方法、文字の大きさの工夫などを図るということです。

施策例としては、ユニバーサルデザインへの対応、多様な障害を支援する読書サービス、非来館型の電子図書貸し出しサービス、こういったものを考えております。ハード面、ソフト面ともにユニバーサル化を図るところに力を入れていくということになるかと考えております。

施策の方向性の３、「子どもの読書環境の充実」です。

読書活動を通じたさまざまな子育て支援や学習活動への支援を行うことにより、より子どもに親しまれ、積極的に利用される図書館を目指す。年齢が高くなるに従って進む読書離れを抑えるため、生涯にわたり読書が身につけられるよう、きっかけづくり、環境づくりを展開していくということです。

具体的な施策例として、児童・青少年向けサービスの充実、札幌市子どもの読書活動推進計画の推進、図書館の魅力を発信するための普及啓発事業に取り組む、こういったものを考えております。

次に、「発信する図書館」の施策の方向性でございます。

施策の方向性の１、「積極的な情報発信」です。

図書館の魅力やサービス内容を、さまざまな媒体を活用して情報発信して、利用者の拡大を図る。札幌市に関する情報を電子化して、札幌市民のほか、全国民へ発信していくということでございます。

施策例としては、図書館ホームページの充実、ツイッターなどのソーシャルメディアの活用、さまざまな媒体や公共空間の利用、外国人に対する利用案内の充実、イベントの充実といったものを例として考えております。

次に、施策の方向性の２、「市民参画の促進」です。

地域における読書活動を広めるため、ボランティアを初めとする市民の参画が必要となるため、図書館運営におけるさまざまな分野での市民の活動の場を検討、提供していくと。

施策例としては、多様なボランティアの導入、図書館利用満足度調査の実施、図書館協

議会の開催、市民との協働によるイベントの一層の推進といったものを考えております。

次に、施策の方向性の3、「効率的・効果的な図書館運営」です。

図書館業務の質的・量的変化や情報通信環境の急速な進展に対応し、充実した図書館サービスを市民に提供するため、業務委託等により民間が持つ能力、技術、人材を導入するなど、運営体制の検討を行うと。

施策例としては、業務委託等民間活力導入の検討ということを考えさせていただいております。

以上が、前回の議論を踏まえまして、再度整理させていただきました基本理念・基本方針3つの説明です。

最後になりましたけれども、前回のご議論の中で、子どもの読書活動推進計画という大きな計画を札幌市全部でつくったということであれば、基本方針3つと同格の位置に、4番目ぐらいに子どもの読書活動を推進していくという項目を大きく掲げることも検討すべきではないかというご意見をいただきました。私どもの方でいろいろ検討させていただいたのですけれども、図書館ビジョンは図書館の計画ということで、子ども読書活動推進計画は図書館に限らず教育委員会全体、さらには一般市長部局も含めて、例えば、子ども未来局とか、保健福祉局とか、札幌市全部を挙げて取り組んでいく計画というようなものですから、その図書館部分だけを取り上げてここにというのは、ちょっとそぐわないのかなということで、子どもを、地域、家庭、学校を挙げて、結んで育てていくというところに力点を置いて、「結ぶ図書館」の中の施策の方向性の3番目に改めて整理をさせていただいております。

以上で説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

●木村会長 どうもありがとうございました。

事務局から、議題 について、資料1と2を説明していただきました。

議題 では、基本理念・基本方針について皆さんのご意見、ご質問をお聞きして、ビジョンの理念、方針はおおむねきょうの会議で決めて、次回以降に施策の方向性とか具体的な施策を中心に議論したいと考えておりますので、その点をご配慮いただいた上で質疑を進めていきたいと思っております。

それでは、皆さんのご意見、ご質問をどうぞ出してください。

●杉野目委員 ちょっと悩んでいるのですけれども、こんなにきちんと3本の柱に単純明快に立てていただいて、しかも、それにキャッチフレーズができ上がっているのに今さらと言われるかもしれませんが、柱を細かくするということは、中になかなか入れにくいものも入れなければいけないという難しさもあるのかなと、これを見て思っていました。1の1本目と2本目はいいのですが、3本目の「情報発信と市民の参画により」というところは、それを1つにまとめて「発信する」になっていますが、この内容を見ますと、積極的な情報発信と、ボランティアと、民活ということで、1つのところに入れていいのかなと思ったのです。

私は、図書館として発信ということが非常に大事にしておられるのではないかとあって、この数カ月を振り返ってみますと、本を虫干しする曝書のときには、早速、曝書のコーナーをおつくりになったり、今はこの災害で原子力とか津波のコーナーを設けられたりしております。結局、そういうふうに市民に情報発信をして、なるべく来てほしいと呼び込むようなところを強めていきたいという姿勢は本当に素晴らしいことだと思うし、特にそれを大事にしておられるので、発信するという柱をお立てになりたいと思っているのですが、もし2番目の本と人と文化を結ぶための1つの手段と考えれば、前の方に「情報発信」というものを入れてもおかしくないかなという気がします。

その辺は、私もちょっとどうしたらいいかなと思っていますので、皆様はどうお考えになりますか。

- 木村会長 杉野目委員から問題提起がありました。杉野目委員も迷っているということなので、皆さんからご意見を伺えればと思いますが、いかがですか。

- 事務局（小松調整担当課長） 私の方から申し上げます。

「発信する図書館」は、市民参画1一つにくくって三つ目の柱にしたという考え方ですが、1番目は、図書館として、札幌市だからやらなければだめだとか、どこからやらなければだめだということではなくて、図書館として当然やらなければならないことをどんどんレベルアップしていきましょうというのが「役立つ図書館」の基本的な考え方です。最近では、どちらかというと活字媒体、印刷媒体で、特にインターネット普及とか電子書籍ということで、電子情報も最近では話題になって広がってきたので、もともと図書館としてやらなければならないサービスとしてそういった部分も高めていきましょうということが1つの考え方です。

2番目は、どちらかというと、今までの図書館は、図書館から見れば本をお貸しする、利用者にとってみれば本を借りる場所、読む場所というかわりだったけれども、今度は、図書館が頑張ることによって、市民の方も使ってもらうことによって、借りる、貸すというときから、さらに図書館にある情報を自分たちの生活とか何かの中に活用していこうというところに広げていけないだろうかというのが結ぶという部分の基本的な考え方ということで整理させていただいております。

3番目は、1番目と2番目を実施していくためには、やはり図書館の職員だけでは限界があって、市民の方にも積極的な運営に入っていて、市民に参画していただいて、そういったものにたどり着いていくということです。なおかつ、役立つよ、結ぶよということを、こういうふうにやっていますよ、どうぞ図書館を使ってくださいと委員がおっしゃるように、そういったことを市民の方にどんどん訴えていくことによって、図書館と市民と利用者が一緒になって成長していけるのかなという意味で、図書館は情報を発信して、市民の人に参画してもらって成長していくという意味合いで、3番目に整理させていただいたという考え方です。

おっしゃるように、前回の議論の中で、発信するということがあったものですから、正

直、そこに力点を置いて、3番目を発信するというところで動詞として抽出している部分です。

●久住副会長 杉野目委員がおっしゃるのはそのとおりだと思いますし、今、ご説明がありましたけれども、3番目が日本語として非常につらいです。「情報発信と市民の参画により、成長する図書館」というのは、ちょっと文章になっていないです。全部詰め込んだ感じが当然ありますので、私としましては、「情報発信」はよろしいのですが、最後の「成長する図書館」というものが、この言葉の中で違和感があります。それから、個人的な考えでは、「成長する図書館」というものが一番期待する言葉として、これを1つ独立した形で、例えば4番目とか、あるいは基本理念の中に入れるぐらい成長するのだという意思表示をもうちょっと表すことができないだろうかと思うのです。成長するためには、当然、挑戦もしなければいけないですし、そのためには、失敗するわけにはいかないのでしょうけれども、いろいろなことを考えなければいけない、それを発信していくということです。この発信というのは、単に今ある情報を発信するだけではなくて、新たにチャレンジするものを発信するという意味ですから、ここに1つ大きな柱として発信するというものを独立してつくるのはいいと思うのですが、その場合、成長することとの整合性がとりづらいので、もうちょっと上の方に持っていくか、あるいは4番目にするかということでしょうか。ご提案させていただきたいと思います。

●酒井委員 私は、前は欠席して失礼したのですが、基本的には、この3本柱は非常にシンプルに表現していて非常にいいと思います。

今のいろいろなご議論の中で、確かなかなか、ばしばしとは切れないのですが、必要なのは一応網羅されていると思います。あとは、ウエートづけの問題で、プライオリティーでどれを前面に持ってくるかということだと思うのですが、先ほどのお話の中で、要するに、今までの図書館というのは、本を貸して借りるところから一段違うところを目指すということだと思うのです。

そういう面でいくと、これを見て、私個人としては、真ん中の結ぶというところが図書館としては新しい試みなのかと思います。役に立つというのは、ある意味、昔からあるわけなのです。調査をするにしてもいろいろな資料がありますから、これは前々からある役割でもあります。その中で、結ぶということは1つ新しい役割かと思います。発信ということも、手あかがついていて、図書館に限らずいろいろなところで発信、発信と言っています。そういう点でいくと、この中で1番特徴的なのは結ぶというところではないかと思っています。

3つの柱で表現するということは1番わかりやすいので、区分け自体はこれでいいと思います。結ぶはこれでいいと思うのですが、「発信する」「役立つ」というところは、内容はこれで全部網羅されていますが、どういう表現にするかということかと思っています。結ぶはいいと思うのですが、「役立つ」「結ぶ」「発信する」という表現上の問題からいくと、もうちょっとすっきりならないかなと思います。

もう1つは、それぞれの「役立つ」「結ぶ」「発信する」の役割の中にライバルがいるわけです。今は、特にインターネットとかそういうライバルがいるわけなので、そういうバーチャルな世界のライバルがいますね。役立つというところでは、最近、若い人はパソコンで、ばっばっばっといろいろ検索して情報収集したりします。それから、発信という意味では、ブログとかソーシャルネットワークがあるし、結ぶというところもありますね。掲示板とかそういうものです。そういうものに対して、図書館がどういうところで優位性を出すのか、そういうバーチャルな世界に対してリアルな建物が、がしっとあってというところで、そういうメディアに対して、どこがこれからの図書館の優位性が保てるところかということ、そういう意味でも私は真ん中の「結ぶ」だと思うのです。つまり、具体的な場所があって、そこに人が集まってきたり、連携してそこでコミュニケーションをとるという場の提供という意味では、真ん中のところが今後の図書館はインターネットに比べての優位性が出てくると思います。

それから、最近、インターネットの世界では得られない、人間のいやしとか、いろいろな目的で図書館を利用されていると思うのです。もっと感性的な、実際に人間がフェイス・ツー・フェイスで対応することによって生まれてくるよさのようなものをもうちょっと強調していけばいいのかなと思います。私は、内容的には非常にいいと思います。

あと、くくり方とキャッチフレーズがもう少しシンプルにならないかなと思います。今すぐは思い浮かばないですけども、そんな感想を持ちました。

●木村会長 ありがとうございます。

基本方針の表現の仕方について議論をしていただくと同時に、それをもっと生かすためには基本理念も少し変えた方がいいということまで含むご意見をいただいています。私は、皆様からもうちょっと意見を出していただきたいと思います。

●木村（修）委員 私は、役立つようにする、発信するという簡潔な言葉でいいかなという感じがしました。最後の発信するについては、久住副会長も言いましたけれども、成長するということは、図書館の本来の機能といえますか、考えていることだと思いますので、市民の参画がなされることによって、その市民の活動によって、どんな付加価値が生み出されてそれが結果的に発信されていくというふうに考えていけば、広く情報を発信するとともに市民の参画を促すのではなくて、市民の参加によって図書館が成長していくというふうに考えた方がいいのではないかと思います。

ですから、私としては、3つ目に「成長する」という方がよろしいかなという印象を受けました。

●木村会長 基本方針については、「発信する」というところで1番議論があって、そのままでもいいというのと、少し変えた方がいいのではないかという議論と、3つ目は、「情報発信」と「市民参画」と「成長する」という3つあるので、基本方針の柱をもう1本ぐらい増やしてという議論と、いろいろ出ています。私は、皆さんからもう少し意見を出していただけてからだと思いますが、いかがですか。

●小泉委員 私も、木村委員や酒井委員と同じ意見ですが、「成長する」というものを3本柱に据えたらいいのではないかと思います。市民が参画しながら成長する、そこで情報発信しながら、という——この「発信する」という3つ目のくくりがちょっとおかしいと思います。3本目は「成長する」としたらいいいのではないかと思います。

●木村会長 今までの議論を少し整理しますと、「発信する」という言葉自体は、前回の会議の中で委員の皆さんから出たものを事務局で積極的に受けとめて3つ目の柱にしたという経過があります。ただ、「発信する」ということ自体は大事なので、むしろ「発信する」という言葉自体は基本理念の中に含めて、むしろ3番目の柱は成長するとか別の言葉の方がいいという意見の方が今のところは多いような気がしますけれども、いかがですか。

●千龍委員 成長するというのは非常に魅力的な言葉です。図書館の側が市民と一緒に成長していきます、私たちも成長するのですという覚悟というのは、非常に市民に訴えるものでもあるし、アピール度も高いし、ほかのいろいろな自治体の図書館などを見ましても、そういう覚悟を表明しているところは少ないのではないかと思います。そういう意味では、図書館みずから成長しますというものは、もう少しウエートをかけて、どこかでしっかりアピールするべきだと思うのです。私としては、この基本方針では発信するということによってよいと思いますので、先ほどご議論がありましたけれども、基本理念の方にしっかりうたい込むということではいかがかなと思います。

●木村会長 逆に「発信する」は基本方針の方に残して、「成長する」を基本理念の中に入れ込むというご意見ですね。

●千龍委員 はい。

●木村会長 ほかにいかがですか。

●久住副会長 この3つの基本方針を経て成長していくわけですから、「成長する」というのはすべてにかかっているわけです。もし、基本理念をいじってもいいのであれば、「知の拠点として成長する図書館」ぐらいに、ここに「成長する」という言葉を1つぽんと放り込んでやれば、前向きな姿勢が出てくるのかなという気がします。ここからは、「成長する図書館」というのは言葉としてちょっと違和感があるので、情報発信と市民の参画で言葉の一つつくるということではいかがでしょうか。

●木村会長 そうすると、最初に久住委員がそういうご意見を積極的に出していただいたので、今の基本理念のところを「知の拠点として成長する図書館」として、基本方針は、市民の参画により発信すると。「情報発信」というと何となく狭くなるような気もするけれども、「市民の参画により情報発信する図書館」ですね。そして、ここは「発信する」のままでいいということになりますね。それで、皆さんの意見のかなりの部分を反映していると思いますがいかがですか。

●久住副会長 それなら、余りいじらなくてもいいかなと思います。

●杉野目委員 何となく、私の中ではなかなか落ちつかないです。ボランティアも、図書館を使いやすくするための何がしかのお手伝いということですね。それから、最後の民営

化もそちらの方かなと思います。

●木村会長 そこまでは書いていません。「効率的・効果的な図書館運営」と書いているだけで、民営化とまで書いていません。

●杉野目委員 最後の方はそうではなかったですか。

●事務局（小松調整担当課長） 最後の方では、民間活力の導入という……。

●木村会長 民間活力の導入というのは、ボランティアもそうです。だから、民営化とまでは言っていないと思います。もちろん、そういう意見があればそういうことですがね。

私の解釈だと、発信するというのは、図書館を市民と行政が一緒になって参加しながら運営していく場所として、ある意味では模範というか、モデルになるという意味合いも含まれるかなと私は考えているのです。皆さんの意見が別ならばいただきたいと思います。

●事務局（小松調整担当課長） ここで、「ボランティアをはじめとする」といったときに、ここのボランティアは、事務局として考えているのは、上田市長が言っている市民自治基本条例をつくって、自分たちで決めて、自分たちがやっていくと。ちょっと大げさかもしれないですけども、ボランティアというと、えてして人手が足りないからという部分ではなくて、やはり図書館を運営、経営していくという中でも市民自治を取り込んでやっていくという意味合いです。そこで、ボランティアの方が、例えば読み聞かせをやるとか、案内をやるということではなくて、目玉となる普及事業の企画運営まで一緒にやっていただくとか、そういったところまで踏み込んで市民の方に参画していただくという意味合いでの部分での使い方というふうに、事務局ではそういうふうに考えております。

●小泉委員 そうすると、このボランティアというのは、私たちが考えているよりずっと高い次元の本当に企画運営にまでかかわるようなボランティアのことをこちらではおっしゃっているということですね。

●事務局（小松調整担当課長） そうです。現在はどうなっていますかという話になりますと、子どもさんに一生懸命やっていただいております読み聞かせのボランティア、あと今年度は図書館の方で本の修理のボランティアもちょっとということで、まだ運営に参画するというレベルまでは行っていないのですけれども、これからは、市民自治推進条例をつくっていますので、市民と一緒に図書館をやっていくという形にだんだんなっていくと思いますし、そういうふうにしていかなければならないと思っております。

ちなみに、大阪市立図書館では、ボランティアの方がイベントや何かの企画にも随分参画しているという事例もあります。他都市ではそういうことが多々ございますので、ひょっとすると札幌市がちょっと奥手だったのかなという部分はあるのですけれども、今、事務局としてはそんな形で考えております。

●千龍委員 そちら辺のことを、ボランティアという言葉の前に簡潔に、具体的に沿えてみたらどうでしょうか。

●木村会長 後ろには、さまざまな市民との協働を促進するという言葉は書いてあるので

すけれども、もう少し具体的にした方がいいですか。

●久住副会長 聞いたことがある言葉ではなくて、もうちょっと刺激的な言葉があるといいですね。

●事務局（小松調整担当課長） 施策の方向性の2番目が「市民参画の促進」というふうになっていまして、行く行くは、ここの解説の中で、今、私が事務局の方で考えているような考え方は、そこの中で表現させていただこうかなというふうには考えております。

●久住副会長 恐らく、何を発信できるのかということですね。既存の今やっていることとか、範囲のものを発信するのではなくて、先ほど酒井委員がおっしゃったように、私も「結ぶ」はとても大事なところだと思っていまして、本・人・文化を結ぶというのは、私の発想は、かなり広範囲に広がっておりまして、著者と読者を結ぶ、それから、例えば、その舞台を訪れる、あるいはワークショップを行う等々、さまざまな本を中心にしているいろんなものを結びつける、その舞台として図書館が何かできないだろうかというチャレンジするようなことを発信する。これは、発信する価値というか、発信をしなければいけないわけですから、当然、3番目にきちんと発信という言葉をとっておくことは重要だと思うのですが、今のこの文言だけであれば、確かに発信だけではちょっと弱いかなという気が少しはするのです。そこら辺の何か、もうちょっと強い言葉が1つぐらいずつは欲しいのかなという気はちょっとします。

●酒井委員 キャッチフレーズ的な意味から言うと、先ほどの繰り返しになりますが、「結ぶ図書館」というのはなかなかユニークだと思います。非常にいいと思います。「役立つ図書館」は当たり前ではないかという感じがします。それから、「発信する図書館」は、「発信する」ということ自体、結構、いろいろなところで言われますね。別に図書館でなくてもいろいろなところで言われるので、そういう意味で、次のビジョンを言うというときには、もうちょっと結ぶ図書館的なちょっと刺激的なやつがあった方がいいかなという感じですね。

先ほどの「成長する」というのは確かに魅力的な言葉ですね。先ほど、下の階で図書館デビューというポスターを見ましたけれども、子どもから図書館を通じて知的好奇心を養って、市民が図書館とともに子どもから高齢者になるまで一緒に成長していくと。市民も成長していくのだけれども、市民のニーズに合わせて図書館自体も成長していくのだというのはなかなか魅力的なキャッチフレーズです。ですから、ここ入れるか、あるいは、先ほどおっしゃられたように、基本理念のところに入れてもよろしいと思うのです。

もし、ここで成長すると入れるのであれば、その成長にふさわしい書きっぷりにする必要があります。どう成長していくかということが要と思います。

●佐々木委員 今の成長という言葉キャッチフレーズの中に組み込んだらどうかというご意見に対して、私も非常に賛同いたします。「発信する」という言葉も決して悪くはないのですけれども、先ほどのご意見の中にもありましたように、随分いろいろなところで使われていますので、もし3つの柱とするのであれば、柱にするという価値づけが少し弱

まるような気持ちもいたします。それであれば、せっかく「成長する」という言葉がありますので、その言葉を使ってもよいのではないかと思います。

もう1つは、キャッチフレーズの1つ目と2つ目の両方に「活動」という言葉が出ていますね。私は、前回、仕事で休ませていただいたものですから、前回のこともわからずに申し上げるのはどうかと思っているのですけれども、せっかくのキャッチフレーズに同じ言葉が2度出るのはどうなのかと考えておりました。

そうして考えますと、1つ目の「市民の生活や活動に役立つ図書館」はいいと思うのですが、2つ目は、「新たな活動を生み出す」をとって、「本・人・文化を結ぶ図書館」ということで十分ではないかと思うのです。説明の最後に「新しい活動を醸成していく場」という文言がありますので、その方がよいのではないかという気がいたしました。

以上です。

●福地委員 今、1つのご指摘がありまして、「活動」という文言がダブっているの、そういう点で一考を要するのではないかという話でございました。それに関連しまして、例えば、基本理念に「市民の生活や活動を支える」とありまして、基本方針にも「市民の生活や活動に役立つ」とあります。これは、今、佐々木委員のおっしゃったことに関連づけて言いますと、そういう意味では気になるところがあります。全体としてはなかなかいいのですけれども……。

●久住副会長 ただ、基本的には理念を受けて方針があるから、理念と方針は若干ダブっても……。

●福地委員 いや、語句そのものが……。

●久住副会長 全く同じ言葉が並んでいますからね。

●福地委員 そこがちょっと気になったのです。

●杉野目委員 例えば、「発信する」というところを、「開く」としてはどうでしょうか。例えば、そういう感じのほかの言葉があればいいのではないかと思います。

●千龍委員 ここにいい言葉があるのです。「発信する」の説明文の3行目に、「市民にとって価値ある新しい情報を生み出し発信していく必要がある」と。「生み出す」というのはいい言葉があるのではないかと思います。杉野目委員が言われた言葉でもいいのですけれども……。

●木村会長 あくまでも「発信する」をどこかに残すという意見と、3本目の柱はむしろ「成長する」でいいというご意見です。もう1つ、今、「生み出す」という新しいご意見が出たと思います。

ですから、「市民の参画により、成長する図書館」というところは、「市民の参画により新しいものを生み出す図書館」というふうにして、「発信する」は要らないのですか。これは、前回の皆さんの意見を踏まえて事務局で考えていただいた案ですけれども、「発信する」というのは特にこだわりなくて、要らないということでもいいのですか。どこかで生かすというご意見はないのですね。そうすると、少なくとも3本目の柱の「発信する」

は見直して、今のところ、「成長する」とか、「生み出す」という言葉にかえるということです。最初の市民の生活や活動を支える基本理念のところも、「知の拠点として成長する図書館」と先ほど言いましたけれども、これも「成長する」というものが3つ目の柱にあれば、特にそれも要らないということでもいいですね。そこまでは行ったのですが、基本理念の言葉がもうちょっとという意見があります。3本目の柱を「成長する」にするか、何か生み出す図書館とするか、それはもうちょっと皆さんのご意見を聞きたいと思います。

- 久住副会長 今出ている案は、3番目の「発信する」の言葉をかえるという案ですね。
- 木村会長 「成長する」とか「開く」とか「生み出す」という言葉が出ました。
- 酒井委員 「発信する」の上に「情報発信と市民の参画により」とありますね。両方入っていますね。

● 木村会長 多分、「発信する」という言葉が変われば、この「情報発信」も「市民の参画により、成長する図書館」でいいのではないかと思います。

● 酒井委員 これはこれでもいいと思うのです。

● 木村会長 それは皆さんの意見でいいです。

● 酒井委員 ここには「情報発信」と「成長」が2つ入っているのですけれども、今回のキャッチフレーズとしてどちらをとるかということだと思うのです。そういう意味では、上はそのまま下を……

● 木村会長 私は余りこだわりませんけれども、皆さんの今までの意見からすると、ここに「情報発信」と入っているのは、中身からいってもふさわしくないという意見をいただいたつもりで、私はそういうふうに申し上げましたけれども、別に残してもいいというのであれば、残してもいいと思います。

● 酒井委員 残しておいて、例えば、下は「成長する」ということでもいいような気がするのです。

● 久住副会長 下をね。「発信する」を成長すると。どちらを落とすかですね。

● 木村会長 そうしたら、これは、「情報発信と市民の参画により、成長する図書館」ということでよろしいですか。

● 木村（修）委員 今、ちょっと考えていたのですけれども、役立つ図書館というのは、利用者とか地域住民に役立つ図書館ですね。住民、人と人を結ぶ図書館ですね。「発信する」という言い方をすると、どうしても図書館が発信するというようにとられてしまうのですが、そうではなくて、地域住民がいろいろな活動することによって発信されていくということだと思います。そして、成長する図書館も、結果的に図書館は成長するのですけれども、そこで地域住民が活発に活動していかなければ成長はないわけです。ですから、地域の活動とか地域住民の成長を生み出していくというふうに考えると、地域住民に重きを置いて生み出すという方がいいのかなと思ったのです。「成長する」よりは「生み出す」という方がいいと思いました。

● 木村会長 その場合、上の「情報発信と市民の参画により、成長する図書館」はどうい

う表現にすればいいですかね。

●木村（修）委員 基本方針の2つの枠に入ったものは、どちらかを採用するということなのですか。

●事務局（小松調整担当課長） 考え方としては、前回の議論の中では、両方で考えてみて、いい方を使おうという話がありました。あと、例えば、ビジョンの中には文章でやるけれども、概要版だとかふだん使うときはキャッチコピーみたいに動詞形を使うとか、それはまだ決まってはいません。そこら辺は自由になるかと思っています。

●木村会長 ただ、中身としては、先ほどの佐々木委員の意見もありましたけれども、2つ目は、「本・人・文化を結ぶ図書館」というふうにするわけですね。それはすごく積極的でよい意見だと思うのですが、「生み出す図書館」ということを説明する言葉はあった方がいいのではないかと私は思います。

最終的にどういうふうに打ち出すのか、まだいろいろなアイデアがあると思いますが、少なくとも「生み出す」にするか、「成長する」にするか、どういう言葉で表現するかというのは少し議論しておいた方がいいと思います。

その場合、「生み出す」という場合は、何を生み出すのかを言わないと、余りにも抽象的過ぎるかなという気がしましたので、皆様のご意見を聞きたいなと思ったのです。もちろん、下の四角の中は生み出す図書館でいいと思うのですが、上の方の何を生み出すということをもう少し明確にしないと、「情報発信と市民の参画により、生み出す図書館」ではちょっと不十分ではないかという気がするものですから、ご意見をいただきたいと思います。

●竹川委員 今までの皆さんの意見を聞いていて、特に最後の会長がおっしゃった「市民にとって価値ある新しい情報を生み出し発信していく必要がある」というところがよくわからないです。これはどういうことなのか、市民にとって価値ある新しい情報とは何なのかということもきちんと説明しなければならないと思います。

それから、自主的な学習意欲を高め、新しい活動を醸成していくとありますが、この醸成していくという言葉ももう少しやわらかい表現にした方がいいのではないかと考えております。

以上です。

●久住副会長 言葉選びみたいな感じになっていて、なかなかこれというものが出てこないですね。

●木村会長 もう少し時間があると思うので、片づけていきたいと思っています。

先ほど、基本理念のところでも「市民の生活や活動を支える『知の拠点』となる図書館」が後ろと重なっているというお話がありました。これは、もっと簡単に、市民を支える知の拠点となる図書館ぐらいではだめですか。

●久住副会長 たしか、前回、それを生活と……。

●木村会長 ですから、この間、皆さんが、自分たちが出した意見を否定したりしている

ので、それはしょうがないと思うのですが、基本方針の方に「市民の生活や活動に役立つ図書館」とありますので、役立つも議論があるのだけれども、重なっているのです。ここはむしろシンプルに「市民を支える知の拠点となる図書館」にしていいた方がいいですか。それとも、そのままではいいのでしょうか。私はそんなにこだわっていません。

●酒井委員 シンプルの方がいいような気がします。ただ、市民を支えるが余りにも抽象的過ぎると思います。

●木村会長 それはそうです。

●酒井委員 基本理念のところは、これでもいいような気がします。

●木村会長 このままでいいということであれば、このままでいいと思います。片づけていきたいと思います。

●福地委員 基本理念は、皆さん、前回、なかなか知的ないいムードのフレーズであると、特に知の拠点というのはなかなかいいということで、この全体は皆さんがある程度納得しておられたような気がしました。基本方針はそうでなかったにしても、基本理念はこれで落ちついていていいのではないかという感じがしました。

●木村会長 それでは、このままということにしたいと思います。

●福地委員 私が一言話したのは、「る」なのです。「市民の生活や活動を支え『知の拠点』となる図書館」ではないかとお話ししたことを覚えています。が、「市民の生活や活動を支える『知の拠点』となる」という「る」の重なりがちょっとくどくなっているような感じがしたのです。

それが余り気にならないければ、これでよろしいのではないのでしょうか。

●木村会長 皆さん、すごく言葉を大事にしていっているので、貴重なご意見をいただいていると思いますが、よろしいですか。基本理念の柱はこれでよろしいということで、最後の役立つもいろいろ意見は出ているのですけれども、あえて、特にこれをこうしようという意見は今のところ出てきていないと思うので……

●酒井委員 基本的な役割としてずっと守っていかなければいけないと。

●木村会長 「本・人・文化を結ぶ図書館」ということで、最後のところが、「情報発信と市民の参画により、成長する図書館」はいいとして、「成長する」にするか、「生み出す」にするか、あるいは「開く」とするか、少し意見を出してください。

●福地委員 2点目の「本・人・文化を結び、新たな活動を生み出す図書館」は、これでもう大体決まりですか。

●木村会長 「本・人・文化を結ぶ図書館」でいいのではないかと思います。

●福地委員 ということであれば、3点目のところは、「成長する」ではなくて、「生み出す」は……。

●木村会長 「生み出す」がなくなったのですね。

●福地委員 「生み出す」は消したのですか。

●木村会長 「本・人・文化を結ぶ図書館」なのです。「生み出す」は、上の方に入れる

かどうかはまだ議論してないです。

●久住副会長 ちょっと確認ですが、上下の2つありますが、どちらを使うかはまだ決まっていないのでしたか。両方使うのでしたか。

●事務局（小松調整担当課長） 最終的にどちらにするとということはまだ決まっておりません。

●木村会長 どっちにしても、「役立つ」「結ぶ」という動詞にするにしても、もう少し中身を議論した上で、最終的にどういう形でこれを市民に広報していくかということ考えた方がいいのではないかとということで話し合いを進めています。

私は、「生み出す」にした場合は、上の方を直さなければいけないと思います。何を生み出すのか、そこは先ほどご意見も出ていました。

●久住副会長 「生み出す」というのは、ちょっと使いづらい言葉かもしれませんね。

●小泉委員 「生み出す」という言葉は、すばらしい言葉ですけれども、「発信する」に「生み出す」はちょっと違うかなと思います。「発信する」と「生み出す」というのは、図書館そのものに意思があって、図書館そのものがひとり歩きするみたいな、「生み出す」の方は特にそういう気がします。「生み出す」を使うならば、上の「情報発信」というところが、全然変わっていかないとダメかなと思います。

●木村会長 多分、今までの議論を踏まえると、文章自体はかなり変えなければいけないかなという感じがしています。だから、どういうふうに表示するかによって変えなければいけないと思います。「成長する」でよろしいですか。

●久住副会長 今、「成長する」か「発信する」か、杉野目委員がおっしゃった「開く」ですね。

●杉野目委員 全くの思いつきですが……。

●久住副会長 「開く」も、ちょっと説明が必要かもしれませんね。

●杉野目委員 これは、かなり複雑な3要素をまとめようと思うから、非常にイメージしにくいところがあるのです。

●久住副会長 その行動からいきましたら、「発信する」は手前ですし、「成長する」はその後ですね。どちらをとるかですね。「発信」でもいいような気がだんだんしてきました。

●木村会長 「発信する」ということは外に向かうけれども、「成長する」というのは中の話みたくなるので、そこはすごく違います。どっちがいいということではなくてね。

●久住副会長 結んで成長するし、役に立つことを目指して「成長する」、だから「成長する」はすべてを受けてしまうのです。だから、同じレベルで線を引くとしたら、「発信する」の方が、整合性がありますね。

●木村会長 「発信する」の方がいいですか。

●久住副会長 いいかどうかは保留ですが、「発信する」という言葉以上にいいものがあれば……。

●杉野目委員 本当に何人かの方がおっしゃったとおり、この１０年間、余りにもこの言葉が使われ過ぎたので、できることなら避けたい気がします。

●久住副会長 これが１番上の来た場合はわかりやすいと言えばわかりやすいですね。

●酒井委員 あとは、図書館が主体であるということがどの程度強いかなですね。多分、「発信する図書館」だと、図書館がメインになりますね。

●木村会長 でも、「結ぶ」だって同じことです。図書館が結ぶのです。

●酒井委員 そうですが、そこにはいろいろな人とか本が来て、ある意味、場を提供している面もあるわけです。「成長する」という言葉自体に、ある種の謙虚さみたいなものがあると思うのです。常に完璧ではないです。「発信する」というと、かなり大上段な感じが多少あると思います。

●木村会長 そういう意味の積極的な表現であることは間違いありません。ただ、前回の議論は、そういう積極的なことに重点を置いた議論をして発信するということです。私は、どちらでも特にこだわらないですが、皆さんのご意見を踏まえると、今までの議論だと「成長する」という方が支持されているように私は受けとめながら進めています。

●酒井委員 新鮮みはあるかなという感じはしますね。

●木村（修）委員 ２段目のキャッチフレーズの短い言葉の「図書館」はとれないのですか。上の方に、「市民の生活に役立つ図書館」「本・人・文化を結び、新たな活動を生み出す図書館」「情報発信と市民の参画により、成長する図書館」とありますので……。

●木村会長 これは動詞でやるということですから、当然、とっていいと思います。

●事務局（小松調整担当課長） これは、ただ言葉として……。

●木村（修）委員 つながるようなイメージを持つてしまうのです。

●木村会長 上が「図書館」となっているのですから、当然、下の「図書館」は要らないです。

●木村（修）委員 であれば、上で「成長する図書館」といって、前の二つは上の言葉が入っているのですよね。ここで「発信する」というふうになると……。

●木村会長 木村（修）委員は「発信する」の方がいいですか。

●木村（修）委員 上で「成長する図書館」というのはいいと思います。これは入れるべきだと思いますが、そのときに、難しいですね。図書館が成長する……。

●木村会長 「役立つ」「結ぶ」「成長する」の中では、「成長する」というのは確かにわかりにくいですね。

●久住副会長 挑戦するは使いづらいのでしたね。

●事務局（小松調整担当課長） 何に挑戦するのかという部分があります。図書館行政というのは、行政サービスは大体そうですけれども、ゴールがないです。だから、一定の目標があって、そこに１０年で挑戦するという明確な部分があると、行政として挑戦すると言ったときに、こういうプロセスで目標に向かってやっていきますというのは非常に使いやすいのですが、ぼわっとした部分で挑戦すると、空振りに終わらないのかという議論が

必ずついて回るところが気になります。

- 久住副会長 「成長に向けて挑戦をし続ける図書館」という意味で言ったのです。これも、使いやすい言葉ですが、使い古されています。

- 小泉委員 少なくとも「発信する」よりはずっといいです。

- 事務局（小松調整担当課長） 例えば、もし決まったとすると、今後は、長たらしい文章ではなくて、「役立つ」「結ぶ」という部分でどんどん使っていくことになっていきます。例えば、いろいろなところで何かをやっていくとか、予算要求していただくとかといった部分でも、こういう動詞形の言葉ですばっとわかりやすく言って説得力でという使い方をしていくと、図書館としても非常に使い手があるといえますか、長いのをいちいちやっている、聞いている方もうっとうしいという部分があるので、そこら辺ですばって言って、すばっとわかるというところがあれば、本当にありがたいというのはあります。

- 佐々木委員 「発信する」というところについて、ちょっと確認させていただきたいのですがよう、一つ目の「役立つ」のところの説明の後半の方に「利用者が的確に情報を得ることができる分かりやすく、使いやすい資料・情報を提供することにより」とありますよね。この情報を提供するということと、「発信する」ということは別のものとしてとらえられたのでしょうか。

- 事務局（小松調整担当課長） 「役立つ」の方は、例えば、ホームページとかチラシでもそうですけれども、新刊本が入りましたら、こういう新刊本が入りましたという情報を発信していきます。そういう意味で情報を提供していきます。

けれども、その発信する方は、ここであるように、図書館の方で市民と一緒に加工することによって、違う形で新しい価値を生み出していった、こういうのはいかがでしょうか、こういうふうに使っていただけますよ、こういう方法もありますという一加工、二加工入れた部分での提供ということで使い分けをさせていただいております。

- 佐々木委員 わかりました。ありがとうございました。

- 木村会長 持っている資料というだけではなくて、図書館の学びのあり方とか、図書館への市民の参画のあり方とか、そういうことも含めて発信していくという意味だと思います。

今のところ、「成長する」という方が有力ですし、この上の表現からしても「成長する」でいいと思うのです。ただ、そうすると、重点の文章自体は「発信する」となっているので、「成長する」というふうに改めた書き方をしなければいけないと思います。「成長する図書館」となっているので、ここは「成長する」というふうにして、ここは市民の参画により成長するというふうにしなが、中身を少し改めるということです。改めるに当たって、これだけは必ず反映してほしいということがあれば、皆さんの意見をお聞きして、それを私と事務局で整理するということで進めたいと思いますが、いかがですか。皆さんの意見を出していただければと思います。

- 酒井委員 この下の説明の文章ですね。

●木村会長　そうです。これは、「発信する」という形で文書が収められる形になっていますので、むしろ「成長する」ということに重きを置いた書き方をします。先ほど酒井委員が言われたような中身の「成長する」という言葉の意味合いも含めて書くことになると思います。

●酒井委員　例えば、フレーズとして、ここに「市民の生涯にわたる学習を支える場」という非常にいい言葉が書かれているので、市民も成長していく、それとともに図書館も成長していくということで、例えば、「市民とともに成長する図書館」みたいなフレーズが入ってくればいいのではないかと思います。

●木村会長　ほかにいかがですか。

●福地委員　「情報発信」というのは、前回の会合では非常に重要ないいフレーズだということで、多分、事務局は「発信する」とわざわざそこに入れて、「発信する図書館」と入れたのではないかと思います。そうすると、前回のそれには余りこだわらないということですか。

●木村会長　それは、「情報発信」をどういうふうに生かすかというご意見があれば、積極的に言っていたきたいと思います。

●福地委員　こだわるのであれば、例えば、柱を3本でなくて4本にするという場合もあるかもしれませんね。そうしますと、事務局の方で4本目のこの下の部分をまた作文しなければならないので、これまた大変なことです。ただ、「情報発信」というのは、前回いろいろ話が出たことではありましたね。事務局の苦労したところだと思うのです。

●木村会長　苦労して3本目の柱を立てていただいているので、基本理念のところの中に何かそういう文言を入れるか、あるいは、それはこだわらなくていいか。私は、きょうの議論では、あえて4本の柱にする必要はなくて、3本の柱にした上で、「情報発信」というよりも「図書館が発信する」ということですね。だから、そういう意味合いの言葉をどこか基本理念のところ、むしろ、図書館としていろいろな学びのあり方なり、図書館が果たす役割みたいなものをむしろ積極的に市民に今から呼びかけていくのだという中身の発信をするということを基本理念のところ、生かすと、そういうことでいかがでしょうか。よろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●木村会長　どうもありがとうございました。

●佐々木委員　言葉の細かなことを1つだけ確認ですが、1つ目と2つ目に札幌とあって、札幌市ではなく札幌になっています。これは札幌の方がよろしいのでしょうか。「役立つ」の上から4行目の「図書館は地域や札幌に関することも含め」、それから、「結ぶ」のところの下から4行目の最後に「札幌の生活文化を再認識するとともに」とあります。これは、札幌なのか、札幌市なのか、どうなのかということです。

●事務局（小松調整担当課長）　あえて札幌という表現を使わせていただきました。太古からとは言いませんけれども、最近では地域の情報という使い方をしていますが、ずっと

昔から連綿と続いている歴史とか生活文化のような、そういったものを全部引きずってという意味で、札幌という方が全部大きくくくれるかなという意図で市を外させていただいております。

●佐々木委員 わかりました。ありがとうございました。

●木村会長 きょう審議をすべきことは、一応、基本理念と基本方針について議論していただくということですので、1枚目の施策の方向性ということについては、次回以降に本格的に議論するということですが、今までの議論の中で、今回はこういうふうに配慮して審議してほしいということがあれば、皆さんから出していただけるとありがたいです。

●木村（修）委員 資料2の基本方針ですが、例えば、具体的施策例ということで、例えばという言い方をされていました。これは、次回にはもう少し具体的に実例的な例として取り組みをしたいということでもいいのですか。

●事務局（小松調整担当課長） 例えばと今回言わせていただいたのは、これは事務局だけの案で、まだ財政も含めて庁内的にどこにも諮っていないで、例えばこんなことかなという段階での例としてのご紹介という形でございます。

最終的には、予算要求の段階でなければこれをやります、できますというお話はできないのですけれども、その前段の段階までは、関係部局等で、財政のハードルは高くして絶対に事前には「うん」と言わないところなのです。それは別としておいても、関係部局とのかなりの調整を踏んだ上で、もう少し詰めた例示という部分まで次回は行きたいと思っています。今は、本当にざくっとし過ぎているので、もうちょっと細かい部分まで踏み込むような形で作業を進めさせていただきたいと考えております。

●木村会長 よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●木村会長 それでは、きょう、皆さんに大変熱心に出していただいた意見を踏まえながら、この具体的な問題については次回の会議の中で議論したいと思います。

では、基本理念・基本方針については、きょう皆さんに審議していただいて、この後、細かい文言については事務局と私の方で相談させて決めていただいて、次回、正式なものをもう一度発表していくということになると思います。どうもありがとうございました。

次に、議題 のアンケート結果について、事務局から説明をいただきます。よろしくお願いいたします。

●事務局（小松調整担当課長） まず、お配りの資料3と資料4になりますが、まず資料3からご説明させていただきたいと思います。

アンケートの調査結果につきましては、今、調査会社の方で最終的な整理をしている段階で、今の段階では中間報告的な内容になっております。質問項目も非常に多岐にわたって深く掘り下げたということと、さらに一般市民用と来館者用に分けたということで、ちょっと手間取っている段階でございます。

資料3をごらんください。

まず、2の調査設計及び調査方法でございますが、来館者アンケートにつきましては、中央館を含めて市内10カ所の図書館で、来館者2,000人に対して調査票を配布して回収いたしました。1月11日から1月20日までの期間で実施いたしました。

市民アンケート調査につきましては、住民基本台帳から無作為抽出しました12歳以上の男女5,000人に郵送配布して、1月14日から1月24日の間で実施いたしました。

3番の回収結果でございますが、来館者につきましては82.7%の回収率で1,654人の方から回答をいただきました。一般市民につきましては、5,000人に送付いたしまして、有効回収率が27%でございました。結果、1,351人、来館者、市民合わせて42.9%の回収率で3,005人の方から回答をいただくことができました。

次に、1ページ目から5ページ目までについて、重立ったアンケート項目の結果について、例えば、1ページ目の1の読書についてという質問項目の1カ月の読書量についての調査項目でございます。これについては、来館者アンケートでは、1カ月に1冊読むという方が6%、2冊以上読むという方が89%、2冊以上のうち10冊以上読むという方が27%いらっしまったという結果になっております。

一般市民のアンケートですと、全く読まないという方が27%、約3割弱いらっしまいます。1冊が19%、2冊以上が54%という調査結果になっております。

詳細につきましては、こちらの報告書のページ1ということで、具体的には1ページの方に細かい内容について載っております。

結果として、施策への反映ということで、点線の枠になりますけれども、1カ月の読書量の調査結果について、この結果をこれからつくるビジョンにどういうふうに反映してこうと事務局は考えているのかという部分の考え方を施策への反映という項目で記入させていただいております。

1カ月の読書量についてですけれども、来館者の約9割は1カ月に最低2冊以上の本を読むということです。一方、市民の約7割は1カ月に最低1冊の本を読むが、3割弱は全く読まないという結果になっております。

これを受けて、図書館が読書の楽しさ、魅力を積極的に発信していくことによって、3割弱のまだ本を読まないという方が、これから図書館が頑張ることによって新たに図書館を利用してくれる新しいお客さん、顧客さんになる可能性を秘めているという部分がございます、先ほどご議論いただきました基本方針ですね。このときは発信するということだったのですが、施策の方向性の積極的な情報発信をもって、本が嫌いだという食わず嫌いを何とか手当てしていくような具体的な施策に取り組んでいきたいと思いますといった施策への反映ということで、ビジョンへどういう結果を反映していくかという考え方を整理させていただいております。

ちなみに、2番目の読むことになったきっかけということで、来館者につきましては、図書館で見て興味がわいたという方が6割弱、書店で見て興味がわいたが約3割の方でございました。

一般市民のアンケート結果によりますと、書店で見て興味がわいたが5割強、新聞、雑誌など書評やお勧めを見て興味がわいたが2割強ということで、これは来館者の方ですから、図書館に来て本を見るという前提で来ている方への問いとしては図書館で見て興味がわいたという方が1番多いということです。市民については、やはり半分以上の方が書店で見て興味がわいたという結果になっております。

施策への反映としては、本を読むきっかけとして、図書館や書店で見て興味がわいた、書評やお勧めを見て興味がわいたが来館者、市民ともに高い傾向にございます。

これを受けて、図書館としては、テーマ別に資料を紹介するとともに、積極的に本についての情報を発信していった興味を持っていただくということで、基本方針1の施策の方向性2の「分かりやすく、使いやすい情報提供」とか、基本方針3の「発信する図書館」の施策の方向性の「積極的な情報発信」、ここで具体的な施策を展開していくということ、を、次の段階に検討を進めていきたいというつくりの資料になっております。

次の2ページですが、4番の電子書籍についてというところで、これはたまたまだと思うのですが、来館者、一般市民ともに、読んだことはないが読みたいと思うと答えの方が4割弱という結果でした。これは、かなり開きが出るのかなと思っていたのですが、両方とも同じような傾向が出てきたということで、私としては意外な感じで見ておりました。

これにつきましては、役立つ図書館の施策の方向性3で電子サービスの充実ということを考えておりますので、具体的にこれを受けてどういう行政サービスを展開していくかということは次回の中でお示しできるのかなと考えています。

以上、5ページに渡って、主なアンケート結果を受けて、ビジョンの中にどういう方向性として整理しようとしているのかということを実施への反映ということでご紹介させていただきます。

一番最後の5ページになりますが、図書館全体についての満足度に関するご質問でございます。

来館者の方で、「不満」「どちらかという不満」という方が1割ちょっといらっしゃいます。一般市民の方ですと、「不満」「どちらかという不満」という方が13%、「わからない」という方が42%、不満という方とわからないという方を足しますと、残念ながら5割を超えておりますので、「満足」「どちらかという満足」が43%で、くくりとしては、明らかに図書館はもっと頑張らなければいけないということがアンケートの結果ではっきり出てきておまして、施策の反映としては、基本方針3の施策の方向性1、2の部分で今以上に頑張ってサービスにつなげていく必要があるという形が、満足度調査の結果として出てきているところでございます。

途中省略させていただきましたけれども、これで説明を終わらせていただきます。

●木村会長 どうもありがとうございました。

まだ分析は必ずしも全部終わったわけではなくて、これからも継続して分析していくと

いう説明でした。今後の分析の仕方とか、気がついたこれから図書館として大事なことがあれば、皆さんの方からご意見をいただきたいと思います。

●竹川委員 まず、３ページ目にあります図書館に行く頻度です。図書館を利用したことのない方を主にということですが、私としては、むしろ年に数回という方をふやす方を考えた方がいいと思っています。

約１カ月ぐらい前にＳＴＶで見たのですが、実は、図書館の本を借りた人が返すときに、本の中身を抜き取ってしまって、図書館が蔵書を整理するときに困ったという話を聞いたのです。その対策は何か立てているのでしょうか。

●事務局（小松調整担当課長） 本に傷をつけるということですが、どういうふうにするのか、表紙だけではなくて、中身を全部カッターで何かで切ってしまう。あと、よくあるのですけれども、パッチワークや何かのデザイン集で、自分の気に入ったところだけを切り抜いてしまう。また、雑誌などですと、例えば嵐が人気がありますね。嵐の特集になると、その特集のページだけはずぼっとなくなっている。あと、無意識だと思うのですけれども、線を引いているとか、いろいろなパターンがあります。お返しいただくときに、ざっと見て確認するとか、いろいろなところで張り紙したりしています。今回も、特別蔵書整理が終わったときに、結果としてこういう不幸な形になっていますというものを１階で展示して、注意を喚起してお願いしていくことをやっています。特効薬になるようなものはないのですけれども、細かい部分で正しい使い方をお願いをいろいろ積み重ねていくしかないのかなと思っています。

●竹川委員 テレビで放送した以上、中には悪いことをまねする方が出ないとも限りません。もしかすると、そこで満足していないという方もいらっしゃるかもしれないと思ったのです。

●佐々木委員 質問ですけれども、今、詳しい分析をされているということでしたが、今後、そういったものを再度お示しいただけるのでしょうか。

●事務局（小松調整担当課長） まとまり次第、次回のときにお渡しするか、早くまとまれば事前にお送りさせていただいて、次回のときに再度説明をさせていただきます。いずれにしても、お配りして見ていただくということを考えております。

●佐々木委員 そうしますと、そこには年齢別の違いとか区別の違いなどもあらわれているのですね。

●事務局（小松調整担当課長） そういう部分も含めて整理できると思います。

●佐々木委員 よろしくお願いいたします。

●木村会長 私の希望として、４グループぐらいに分けて分析していただければいいなと思っています、本をたくさん読んで図書館を積極的に使う人、本は余り読まないのだけれども、図書館にはしょっちゅう来て図書館の使う人、本は読むのだけれども、図書館は使わない人、本は読まず図書館も使わない。そういう４グループぐらいに分けて、そのグループの人が一体どんなプロフィールを持った人なのかという分析をしてもらおうと、今後、役

に立つのではないかと考えています。グルーピングすること自体は若干大変ですが、データからすると可能ではないかと思うので、希望としてお伝えしてあります。

そうすると、それぞれに対する対策みたいなものも出てくるのではないかと思います。両方で1,000以上集まってデータがありますね。一般の方の回収率は必ずしも高くないのですけれども、でも、これだけのボリュームの調査票はどうしても、こういう無作為の場合は低くなってしまうのはやむを得ないところがあります。

●杉野目委員 図書館を利用する目的を単数回答にされた理由は何ですか。これは、皆さん選ぶのに苦労されたのではないかと思います。読書を楽しむ、生活や仕事に役立てる、教養を深めるということで、3ページにありますけれども、これは利用者の目的を際立たせるためなのですか。

●事務局(小松調整担当課長) 本ですと、1冊ではなくて10冊借りられますので、人によっては、私は小説も、経済誌もいろいろなジャンルの本をまとめて一遍に借りることができるという部分では、複数回答にした方がいいと思います。例えば、どんなジャンルの本を読みますか、借りますかという部分についてですね。ここについては、その人はピンポイントで本当に何をねらってきているのかということを見ようということです。

●杉野目委員 これを選ぶのは難しかったと思います。

●事務局(小松調整担当課長) 確かに来館者のときは、なかなか暑くて、我々は交代で張りついて、いすのところまで案内して鉛筆を渡して書いてくださいと、ずっと張りついていました。アンケートに答える方も、こんなアンケートは初めてだと汗をふきながらというぐらいでした。結局、皆さんは一生懸命アンケートに応じていただいたということで、非常に感謝しております。自分でやっても、結構難しいなと思います。

●杉野目委員 それから、レファレンスサービスは、図書館によく来ている人でもこれだけ知らない人がいるのはすごくショックなのですが、これはどういう原因があるのでしょうか。PRでしょうか。

●事務局(小松調整担当課長) 例えば検索機などは、はなからキーボード操作は嫌だと、便利なのは知っていると、そういう方もいらっしゃいます。あるいは、私は図書館はこういう使い方でもいいのだという方ですね。あと、本当にこちらのこういうサービスがありますよという周知が足りなかった部分と、いろいろな要素があるのかなと感じています。

●木村会長 いろいろなことが言えますね。余りさわらないけれども、やはり来館者の方には比較的年配の人が多いし、職業を持たない人が来館者で回答者として多いですね。そういう意味では、仕事のために図書館を使うという人は余りいないのかなということになると、使い方も限られてくるというようにいろいろ言えると思います。もう少しきちんと見なければわからないですけどもね。

私なりの仮説で言うと、図書館をすごくよく使う人と全く使わない人の両極ですね。それは、勉強する子どもと勉強しない子どもの両極化がすごく進んで中間がないと言われているのと同じようなことが図書館の利用についても言えるのかなと思います。これは、

あくまでも仮説だから、分析した結果、そうではないということは言えるかもしれませんが、もしかしたら、そんなことがあるのかなと思いながら考えていました。

- 竹川委員 例えば、図書館を問題視していますけれども、勉強するためだけに図書館を使っている可能性も十分にあるわけでしょう。

- 木村会長 そういう人もいますね。

- 竹川委員 確かに、図書館の本を借りないで勉強ばかりするというのはどうかな、と思うところもあるのですけれども、その一方で、勉強する場所として図書館しか使えないという方もいらっしゃるでしょうから、そこら辺はちょっと考えていく必要があるかもしれませんね。

- 木村会長 両極という意味は、つまり、知らないで勝手なイメージで図書館を評価しているということもあると思います。今の図書館がどうなっているのかということを知らないで、図書館はこういうところだといって、すごくマイナスのイメージを持って図書館をとらえられているということもたくさんあります。特に、市民の5,000人のうち、1,351人というのは、どちらかというと、まずは積極的に図書館のことを考えてくださっているわけで、ある意味では、回答しない人が一番無関心ということですからね。

- 竹川委員 たしか、前回、アンケートの特徴をとったときに、このアンケートは10%も行かないという意見が出ていましたね。それにしては、ましな方かなと私は思っています。

- 木村会長 27%の回収率だけれども、それでも全然使わないという人はかなりの比率に上っているということですね。そういうことが、私が言っている両極化ということですよ。

この後も分析を進めていただきますので、もし気がついたことがあれば、皆さん、この後も事務局にお伝えしていただければと思います。

アンケートについてはよろしいでしょうか。

- 福地委員 1ページに図書館のサービスについてとありまして、相互貸借制度がございます。これは、10冊までお借りできるというものですか。

- 事務局（小松調整担当課長） 相互貸借は、札幌市の市立図書館になくて、例えば道立図書館にあるとか……。

- 福地委員 わかります。それは何冊……。

- 事務局（小松調整担当課長） それは10冊の中に入っています。

- 福地委員 10冊以上お借りすることはできないのですね。

- 事務局（小松調整担当課長） できません。

- 福地委員 そこで、このサービスを知らない人が4割ほどいるようですが、これは、図書館に来て本を借りて返すということではお金はかかりませんけれども、この相互貸借制度でやると郵送料がかかりますね。

- 事務局（小松調整担当課長） はい。それは図書館持ちです。

- 福地委員 だから、この相互貸借制度が10割の方が知っていて、1人が10点お借り

してどんどんお借りするわけでしょう。これは、経営上も図書館はなかなか大変なところになってくるのではないかなと思うのが1つです。もう1つは、これを利用する方は、特定の方というか、例えば1つのある研究テーマを持っておられているという学者さんとか、一般の人は市立図書館内の本で間に合いますけれども、これを利用する人は、どちらかというと特定の方がということになりませんか。そして、これは非常に予算を伴うものでもあるということであれば、どんどん奨励して利用してもらいたいという気持ちは図書館ではありなのですね。

●事務局（小松調整担当課長） 考え方として、国立国会図書館のように全出版物を収蔵して貸し出しするという体力はございません。本当はそれができれば一番いいのかもしれませんが、それはとても無理な話なので、やはりお互いに助け合って図書館がやっていくという考え方です。

あと、実際の利用に当たっても、この制度を使って、例えば学術研究をやっている方が特殊な専門書を借りられる場合もないことはないです。例えば、小説家とかいろいろな分野で、余り一般には出回っていないけれども、そういう読者がいるということで、ごく一部の人に偏っているということではないと思います。

●木村会長 相互主義だから、札幌市民の人が、例えば仙台の図書館から借りたいというときは、仙台の図書館が負担するのではないですか。札幌市の図書館が負担するのですか。

●事務局（千葉業務課長） お互いに片道負担です。これは、図書館の相互協力ということですので、お互いさまということです。

●木村会長 むしろ、札幌市民がたくさん使うとほかの図書館が困るということで、逆に言うと、札幌市の図書館にある本を道外のいろいろな人が欲しいというときは、それがちょっと負担になるということはありません。大学などで問題になっているのは、すぐ手に入るような本が送られてくるのです。今、私の研究室にもいっぱい来るのですが、絶対に郵送料の方が高いのです。このごろ大学は本を買わないので、すぐに手に入るような本が来ています。でも、それが実際に問題になるということは余り心配しなくてもいいと思います。

●事務局（鈴木管理課長） 札幌市の場合ですと、蔵書はある方ですので、むしろ近隣の図書館の方に貸し出す方が多い状況ですね。

●木村会長 そっちの負担ですね。だから、札幌市がというわけではないのです。それは問題になると言えば問題になることはあるかもしれません。

●福地委員 結局、貸借制度で行きますというと、これは市外というのは道外と解釈していいのですね。大学も、本州の大学とか、本州の鹿児島とか東京とか、札幌市の図書館ではなかなか入手できないような本は、国立国会図書館などをお願いするしかないですね。そうしますと、郵送料等がかかりますね。1つのテーマを持っているのであれば、1冊、2冊でなくて、最高の10冊ぐらいは借りたいという人がほとんどではないかという感じがするのです。そうしますと、その辺のところの予算上、余り歓迎しないから4割になっ

ているのか、もしこの制度がいいというのなら、もう少しPRをしてこの4割を高めるとか、そういうこともあっていいのではないかと思ったのです。

●事務局（小松調整担当課長） 図書館としては、行政サービスの一貫として、ばんばん使っていただければ費用の負担が、それは本を買うより安いのか高いのかという議論はあるにしても、ある人は知っていて、ある人は知らないというのはまずいというところをスタートにしなければだめなのかなと考えております。

●事務局（千葉業務課長） 必要があれば、そのときにきちんと使えるという運用が必要だと思います。特定の方が何十冊もということはほとんどないです。例えば、小説にしても、全10巻であるのに、我々のところは7巻目と8巻目が欠けていたということで他の図書館から借りることもありますし、専門的な本で所蔵していないので専門の大学図書館から借りることもありますので、そういう制度を必要に応じてきちんと使えるということですね。そういう状況のときに、この制度があるということを市民の皆さんが知っていて、制度を使う、そういう運用でいいと思います。特に、これを奨励するということではなくて、これを知っておいていただいて、そういうときも図書館は大丈夫だよという形で使えばいいかなと思っています。

●福地委員 わかりました。

●木村会長 ほかにいかがですか。

（「なし」と発言する者あり）

●木村会長 それでは、熱心に討論をしていただき、ありがとうございました。

本日の議題については、これで終わりたいと思います。

次回以降は、施策の方向性の具体的施策例について皆さんと協議したいと思います。

それでは、次回の協議会の日程について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

●事務局（鈴木管理課長） 次回につきましては、5月中を想定しております。皆様の予定を調整させていただいた上で決めますので、5月から多少外れるようなことも場合によってはあるかもしれませんので、よろしくお願いいたします。

どうもお疲れさまでした。

4. 閉 会

●木村会長 それでは、これで閉会します。

どうもありがとうございました。

以 上